



**世界一わかりやすい
在庫削減の授業**
◎若井吉樹著
(サンマーク出版・一、四七〇円)



**あなたの会社の強みを
活かさない**
◎小山昇著
(生産性出版・一、五七五円)



**よく分かる
「品質改善」の本**
◎小川正樹著
(日刊工業新聞社・一、三二〇円)

現在のような市場の需要が減退し、売上が伸びない環境下では、機会損失よりも売りにつながらない在庫を抱えることはリスクが高い。本書では「世界一わかりやすい」というタイトルの通り、専門用語ではなく、わかりやすい言葉で在庫削減の手順が解説されている。著者はトヨタ生産方式をベースとした在庫削減コンサルティング活動に携わってきており、その豊富な経験をベースに本書を執筆している。そのため、在庫削減の机上の理論ではなく、すぐに役立つ改善の進め方が盛り込まれている。物語風の事例を読みながら、在庫が増える理由、余分な在庫が引き起こす問題、適正在庫の維持方法、在庫の減らし方などのポイントを理解できる。本書の最後には、売れに合わせた仕入れを実現し、在庫削減に熱心に取り組んでいるコンビニ業界について、本書の在庫削減の手順に当てはめて解説している。

本書は、製造業の人だけでなく、流通業の人でも短時間で読みこなすことができ、在庫削減の手順を理解できる内容になっている。生産部門の人にとっても、今まで進めてきた在庫削減のやり方を振り返り、見直すべき点はないかを確認する上でも、一読をお勧めする。

(榎本昌之/NEC)

本書は日本経営品質賞を受賞した(株)武蔵野の代表取締役社長小山昇氏が、企業の組織構築とそれともなうIT化の実例を書いている書籍である。

冒頭、筆者は問いかける。「紙を2枚用意し1枚に奥さんの長所を、もう1枚に短所を書いてみよう。どちらが多く書けますか」。一般に短所の方が多く書かれるはずですが、筆者は長所を伸ばすことが会社を伸ばすことであると長所重視の姿勢を首尾一貫している。欠点を直すことに力を注いでも元気が出ない。長所を明確にして、さらにIT化によって強化していくことが筆者のってきたアプローチ方法である。

経営者が明確な方針を据え全社員が同じベクトルで実行していく。これに勝る組織的強みはない。その強みを作り上げるのは人である。人にはコミュニケーションが必要であり感情もある。コミュニケーションをさらに良くするには？ 感情を伝えるためには？ という切り口で施策を打つ。過去に先端のIT導入してきた同社の目的はお客様サービス向上と、それを社内のしくみとして根づかせるためである。

たくさんの情報が公開され、実際の組織プロフィールが紹介されているのも参考になる。活力ある組織の構築を考える時に元気を与えてくれる一冊である。

(加山一郎/株金門製作所)

品質は、企業が最優先しなければならないことのひとつであり、多様化するお客様の要求レベルに対応するために、品質保証がかかせず、人、機械設備、材料などの特性をうまく活用し、ばらつきのない品質の作り込み方法の確立が必要としている。そのための製造現場を中心にした、品質の作り込みに向けた品質改善の基礎知識から品質改善の具体的な進め方まで、事例を交えながら解説している。

1～3章では、モノづくりと製造品質、改善ポイント・管理ポイント、品質改善に対する心構え・必要な改善力・組織力について解説している。また、4～5章では、現場でできる製造品質改善の進め方として、テーマの選定・対策立案と効果予想・効果の確認・歯止め標準化について解説し、6～7章で、より充実した品質改善のための管理技術・品質コストの見える化などを説明している。

各章の始めには「この章のポイント」として、解説しようとしている内容があり、各節の終わりには「ここがキポイント！」として、重要なポイントを簡潔にまとめられ、分かりやすい構成となっている。現場力強化のためにいろいろと取り組んでいる、多くの方々にお勧めである。

(日本IE協会事務局)